

日立物流グループの歩み



時代背景

1950年～
戦後復興・高度経済成長

運輸部門を統合し独立

(株)日立製作所の輸送業務を請け負う物流子会社として、1950年2月に創業し、貨物運送事業を開始。1967年には西部日立運輸(株)、東京モノレール(株)と三社合併し、日立運輸東京モノレール(株)に商号を変更しました。



1976年～
製造業のグローバル化

海外進出

海外戦略の布石として1976年にシンガポールで最初の海外拠点となる現地法人を設立しました。また、1984年には航空貨物の拡大を背景として、航空運送事業にも進出しました。



1986年～
バブル経済およびその崩壊

システム物流(3PL)スタート

1986年8月にシステム物流の原形となるTRINETのサービスをアパレル顧客向けに開始しました。その後、対象分野を建材、医療、食品などへ拡大していきました。



1998年～
ITバブル

大型3PLへの自家アセットでの参入

1998年にアディダス ジャパン(株)、2002年にイオン(株)の物流業務を一括受託し、自家アセットによる大型の3PLへ参入しました。特に2003年2月に竣工した関西NDCは、当社最大級の庫腹と最新設備を有していました。



2007年～
デフレ長期化・SDGs採択

M&Aでの拡大戦略

国内では業界プラットフォーム、海外ではネットワークの拡大をめざし、2007年の(株)資生堂からの物流子会社譲り受けを手始めに、2013年までに国内外で計18社のM&Aを実施。事業規模を大きく拡大させました。



2016年～現在
サステナビリティ・脱炭素社会

協創戦略・LOGISTEED推進

2016年にSGホールディングス(株)、2018年に(株)イーアイティと提携を行い、協創領域を拡大。2018年に日立キャピタル(株)(現 三菱HCキャピタル(株))と提携し、持続可能な物流の実現をめざす輸送デジタルプラットフォーム「SSCV」の開発・活用を推進しています。



価値創造の変遷

売上収益の推移

